

Hospital Concert

『世界の車窓から』で
お馴染みのチェリスト

溝口 肇



ピアニスト

山口ちなみ



【日時】2020年1月23日(木) 17:00~17:40

【場所】1階ホスピタルストリート(100周年コーナー)



がん研有明病院

THE CANCER INSTITUTE HOSPITAL OF JFCR

【プログラム】

Season's Greetings (溝口肇)

誰も寝てはならぬ (プッチーニ)

悲しみの向こう (溝口肇)

Someone in the South (溝口肇)

鳥の歌 (カタロニア民謡)

ニューシネマ (モリコーネ)

世界の車窓から (溝口肇)

【演奏者プロフィール】



溝口 肇

チェリスト・作曲家、プロデューサー。指揮者カラヤンをテレビで見て3歳からピアノを、11歳よりチェロを始める。

東京芸術大学卒。1986年ソニーよりデビュー。以後、クラシック、ポップス、ロックなど幅広いジャンルで活躍。

テレビ番組「世界の車窓から」のテーマ曲はあまりにも有名。

自身の音楽を「心の覚醒」と位置付け、奏でるチェロの美しさ、ホスピタリティあふれるサウンドは、ジャンルを越えて多くの人を魅了し続け、ミュージックシーンに独自のスタンスを確立している。

GRACE MUSIC LABEL を主催し、CD制作、ハイレゾ音楽制作を行っている。最新鋭レコーディングにも精通し、ハイレゾ最高峰であるDSDでの制作、配信も精力的に行っている。

主なテーマ音楽など：

世界の車窓から (テレビ朝日)、ジェットストリーム エンディングテーマ (TFM)
ヨーロッパ空中散歩 (BSフジ)

近年リリースアルバム：2017年「Music Book」：全編ジャズによるセルフカバー。

2017年12月「Almost Bach」：チェロクインテットによるバッハなどのクラシックカバーアルバム。

2019年4月「WORDLESS」：全曲書き下ろしによる、チェロとピアノのデュオが美しいアルバム。

山口ちなみ

ピアニスト。ヴィルトウオーソコース修了。

在学中にソリストオーディションに合格し、武蔵野音楽大学管弦楽団と国内及びドイツにてベートーヴェンの協奏曲第3番を演奏。読売新人演奏会、関西新人演奏会、若い音楽家達の飛翔、むさしのフレッシュコンサート、和歌山県新人演奏会等に出演。第9回かがりの里音楽コンクール第1位、第21回日本クラシック音楽コンクール第5位(1~3位なし)、第14回北関東ピアノコンクール第1位受賞。ピアノを丹羽節、中村勝樹、重松聡、伴奏法を三ツ石潤司、室内楽をC.ドルの各氏に師事。マスタークラスなどでケマル・ゲキチ、ホルヘ・ルイス・プラッツ、ジョン・ダムガードの各氏に指導を受ける。2017年12月には紀尾井ホール、2018年1月には東京文化会館小ホールにてリサイタルを行う。また、室内楽ではチェリストの古川展生、ヴァイオリニストの枝並千花、アイシャ・シエト、読売日本交響楽団のメンバーによるカルテット、二胡奏者の許可の各氏と共演。



【コンサートのご報告】



2020年1月のホスピタルコンサートは、3年ぶり6回目のご出演となります『世界の車窓から』でお馴染みのチェリスト溝口肇さまと、初めてご出演のピアニストの山口ちなみさまをお迎えして開催いたしました。溝口さんのチェロの演奏を楽しみにして下さった方が多く、当日は沢山の方にご来場いただき、座席もすぐに満席、立ち見や2階からご覧になる方もいらっしゃるほどでした。多くの方が待ち望み中、コンサートは日本の四季の美しさを表現したという『Season's Greetings』という素敵な曲から始まり、溝口さんがチェロを始めるきっかけとなられた「鳥の歌(カタロニア民謡)」を披露して下さったり、溝口さんが使用されているチェロは、300年ほど前にイタリアで生まれ、「アンジェラ」という愛称がついているというお話も聞かせて下さったりと、あっという間に溝口さんの世界に引き込まれました。そして、最後は誰もが一度は聞いたことのある「世界の車窓から」のテーマ曲、普段テレビで流れるのはショートバージョンとのことですが、今回はフルバージョンでの演奏を聴かせて下さり、患者さんやご家族だけでなく、職員も癒していただきました。病院にいるとは思えないようなひとときだったという嬉しいお声もいただきました。アンコールも含め、全8曲の素晴らしい演奏に、心も新たに、気持ちよく新しい年をスタートさせることができました。溝口さん、山口さん、2020年の幕開きにぴったりのコンサートをどうもありがとうございました!!